

わが

暮らしやすさを日本一、実感できる
まちを目指して

魅力の能美

石川県の南部に位置する能美市は、霊峰白山や清流手取川など自然が豊かで、国指定史跡「能美古墳群」や華やかな色絵が魅力の伝統工芸「九谷焼」など、美しい自然の中に歴史と文化が息づくまちです。近年は企業誘致も好調で、

地元企業も含め働く場所が豊富となり、保育園や児童館、相談窓口、支援制度など、ハード・ソフト面で子育て環境に優れ、動物園や遊園地、温泉などの観光



能美ふるさとミュージアム



能美市キャッチコピー「したいこと、能美市だったら叶うかも」

資源も整った、住みやすさを実感できるまちでもあります。

キャッチコピーに「したいこと、能美市だったら叶うかも」を掲げ、全ての施策が移住・定住の促進につながるよう事業を展開しており、将来的な人口減少を見据え、SDGs 未来都市として持続可能な能美づくりを推進しています。

デジタル技術と
市民力・地域力の融合

本市の地理的特徴として、東西に細長く、海から中山間地域まで多様な環境であることが挙げられます。また、車を持たない高齢者、障害者、外国人などは、移動が困難であるとともに孤立のリスクが高く、世代や属性を問わず地域の課題となっています。

これらの課題を解決するため、



安心して暮らし続けることができるまちへ

本市では「能美スマートインクルーシブシティ」の実現に向け、デジタル技術と市民力・地域力の融合によって、誰もが幸せに安心して暮らし続けられるまちを目指し取り組んでいます。医療・介護・

具体的取り組みは、令和4～6年度にかけての段階的な実施を予定しています。令和4年度中には、多職種・多機関の事務効率化とケアの質の向上を目的とした「医療介護情報連携システムの構築」や、地域の見守りが必要な市民の生活情報など、情報鮮度の高いデータベースの構築と救急搬送との連動、地域防災への活用、情報共有を目的とする「福祉見守りあんしんマップの電子化」の実施が完了します。さらに翌年度以降は、遠隔医療やIoTを活用した在宅見守りシステムを構築し、こ

福祉の共通プラットフォームや、データ共有・活用などにより遠隔医療・在宅見守りシステムを構築し、デジタルリテラシーが低い市民も利用可能な5Gなどのインフラ環境を、公民館などの地域拠点に併せて整備することで、子育て・買い物・移動など総合的に利用できる、最適化された総合生活支援サービスの創出を図っていきます。

これらの運用により、さまざまな立場の市民が在宅で必要なサービスを受けられるよう進めてまいります。

大雨による甚大な被害

令和4年8月3日夜から4日にかけて降り続いた雨は、本市へも甚大な被害をもたらしました。4日の夜明け前に大雨警報が本市へ発表され、1時間もたわずして土砂災害警戒情報、洪水警報が立て続けに発表されました。このとき降った雨は1時間雨量が80mmを超える猛烈な雨であり、息が苦しくなるような圧迫感と恐怖があると比喻されます。すぐさま災害警戒体制会議を招集し、避難指示を発令すると同時に指定避難所を開設、市内全域にも自主避難を案内の上、自主避難所を順次開設しましたが、短時間で広い範囲への影響が確認されました。過去に経験したことのない大雨は、幸い人的被害は無かったものの、冠水や土砂の流入により、住宅や道路、農地・農業施設、観光施設などに壊滅的な被害が生じました。

水が引き始めると、より詳細な被害状況が次々に明らかになり、

市内のあらゆる箇所に残された大雨の爪痕を目の当たりにし、より早急な対応が必要であることを再認識しました。

復旧・復興そして、より安全・安心のまちへ

いち早く日常を取り戻すためには、あらゆる面で被災者の支援を早期に進める必要があります。被災に関する手続きなどを一度に行えるワンストップ窓口や、被災箇所から寄せられる災害ごみ集積所、また、大勢の方よりボランティア登録があったことから、ボランティアセンターを順次開設しました。冠水や土砂災害で損壊した道路や農地などの復旧工事や修繕についても、機動的に決定し、早急な復旧・復興に向け対策を講じました。

被害が大きく、まだまだ復旧に時間がかかる箇所が多くありますが、国や県と連携を図りながら、安全に安心して住み続けられる能美づくりを実現してまいります。

千載一遇のチャンスに向けて

来年は、能美が誕生して1200

年と成る「加賀立国1200年」、石川県内では「いしかわ百万石文化祭」が開催されます。2024年春には「北陸新幹線県内全線開業」、2025年は「市制誕生20周年」など節目の年を迎えます。これらの機会を通して多岐の分野で最大の効果が得られるよう、能美市が誇る市民力・地域力を生かし取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 84・14 km²
- ◆ 人口 4万9767人
- ◆ 世帯数 1万9762世帯

〔将来都市像〕暮らしやすさを日本一、実感できるまち

〔まちの特徴〕豊かな自然に恵まれ、悠久の歴史や華やかな伝統工芸が魅力の、住みやすさを感じられるまち

〔市町村合併〕平成17年2月に根上町、

寺井町、辰口町の3町が合併

〔特産品〕伝統工芸「九谷焼」、加賀丸いも、国造ゆず

〔観光〕九谷陶芸村、国指定史跡「能美古墳群」などを紹介する「能美ふるさとミュージアム」、辰口温泉や動物園など

〔イベント〕九谷茶碗まつり、根上り七夕まつり、辰口まつり、古墳まつり、防災フェスタ、全日本競歩能美大会



能美市長
井出敏朗



令和5年は「加賀立国1200年」の節目

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

共感・共創のまちづくりで
持続可能な都市を目指す

桐生市は、群馬県の東南部に位置し、栃木県との県境に接する、人口約10万人の都市です。東京には直線距離で90km、車で約2時間、JR（新幹線経由）または東武鉄道により約1時間40分で結ばれています。

歴史を有する「織物のまち」です。

桐生の織物の起りは古く、奈良時代のはじめには絹織物を朝廷に献上し、江戸時代には「西の西陣、東の桐生」と称されるほどの織物の一大産地でした。

市街地には、そんな織物産業の繁栄を今に伝えるまち並みがいたるところに残り、近代化遺産の宝

庫となっています。特に、天満宮地区と本町1、2丁目には、約400

年前の土地の区画（敷地割）に江戸後期から昭和初期に建てられた主屋や土蔵、ノコギリ屋根の工場など、絹織物業に関わるさまざまな建造物が数多く残り、織物業で栄えた桐生の歴史を今に伝えることから、平成24年には国の「重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）」に選定されています。

また、平成27年には、この重伝建地区を含む市内の絹産業関連遺産6件のほか群馬県内7件の計13件を構成文化財として、日本遺産「かかあ天下―ぐんまの絹物語―」の認定を受けています。このことは、古くから絹産業が盛んだった上州で家計を支えてきた女性を、上州名物「かかあ天下」とたたえたもので、日本遺産の登録名称の



桐生新町重要伝統的建造物群保存地区

由来になっています。市内に残る織物工場やゆかりの場所には、そんな「かかあ」たちの夢や情熱が詰まっていて、桐生の活気が、こうした女性たちの力で支えられてきたことを感じさせられます。

山紫水明の地がもたらす
食文化

本市の魅力は、先述した織物を中心とする繊維産業にとどまることなく、上毛三山の最高峰である黒檜山（1828m）や、国内希少野生動植物種に指定されている



伝統的工芸品「桐生織」

織都と謳われ

市街地には渡良瀬川と桐生川が流れ、三方を山々に囲まれた、水と緑に恵まれた地であり、また、1300年にわたり脈々と受け継がれる織物産地として歴史と伝統が息づくまちです。

桐生は、群馬県民なら誰もが知る「上毛かるた」で「日本の機どころ」と詠われる、1300年の



市内に数多く残るノコギリ屋根工場



日本野球聖地・名所150選に認定された桐生新川球場跡（現：新川公園）

カッソウが自生する鳴神山などの山々に加え、水源の森百選にも選ばれた桐生川源流林など、豊かな自然が身近にあることも大きな魅力と言えます。

また、こうした豊かな自然の恩恵として、食べ物がおいしいことも桐生の魅力であり、そうしたことから、食都または食い道楽のまちなどと言われることもあります。

桐生ではソースカツ丼や幅広のひもかわうどんが一定の知名度を有しており、最近では、ご当地グルメブームの影響などもあって、テレビをはじめ多くのメディアで取り上げていただいています。これらは元々、仕事に励む女性たちを食の面で支えた

桐生の郷土食ですが、それ以外にも機屋（織物工場）の旦那衆（事業主）がお客をもてなすために、都会の有名店などを桐生に引っ張ってきたといったエピソードもあり、食文化も桐生の魅力の一つとなっています。

「球都桐生」野球が持つ魅力を生かしたまちづくりの推進

本市では、同規模都市では突出した、市内5校もの高校が甲子園出場実績を有し、中には甲子園で優勝・準優勝の輝かしい功績を残した学校もあります。また、甲子園優勝に加えて、プロ、社会人、大学、還暦の各分野で日本一のチームを率いた監督を輩出してきたという土地柄でもあります。こうした全国的にも類を見ない野球関連の実績を持つ本市は「球都」と呼ばれ、その強み・魅力を活用して行こうと、本年から9月10日を「球都桐生の日」として記念日に制定しました。

今後は、球都としてふさわしい大会の誘致やスポーツを通じた青少年の健全育成事業など、野球が持つ魅力を生かしたまちづくりの推進を通じて、交流人口の増加や地域経済の活性化に寄与するような取り組みを展開して行きたいと考えます。

感性育み 未来織りなす 粋なまち

織都としての歴史を背景に受け

継がれてきた、どこか懐かしさを感じる趣のあるまち並みや伝統文化、北関東最大級の誘客を誇る桐生八木節まつりをはじめとする多彩なイベントなど、桐生にはたくさんさんの宝（地域資源）が満ちあふれています。

ここ数年、こうした桐生の地域資源に感性を刺激され、または魅力を感じて、子育て世代の移住や

若い方たちによる中心市街地での創業などが増えてきています。

こうした明るい未来への兆しをこれからのまちづくりにつなげていけるよう、公と民がお互い手を携えながら、共に感じ、共に創ることで、本市の魅力をより一層高め、人を惹き付け続けられるまちにしていきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 274.5km²
- ◆ 人口 10万5304人
- ◆ 世帯数 4万9542世帯

〔将来都市像〕感性育み 未来織りなす 粋なまち桐生

〔まちの特徴〕水と緑に囲まれた豊かな自然の中に、織物産業をはじめとするものづくりの伝統が息づくまち

〔市町村合併〕平成17年6月13日、桐生市に新里村と黒保根村が合併

〔特産品〕桐生織、繊維製品、キュウリ、ブドウ、シイタケ、マイタケ、アジサ



桐生市長
荒木恵司



イ、豚肉、ひもかわ、ソースカツ丼

〔観光〕レトロなまち並み、重要伝統的建造物群保存地区、日本遺産、桐生が岡動物園・遊園地、ぐんま昆虫の森、キャンプ場、トレッキング・ハイキング、溪流釣り・鮎釣り、わたらせ渓谷鐵道

〔イベント〕桐生八木節まつり、桐生ファッションウィーク、桐生市堀マラソン大会、チューリップまつり、えびす講

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

元気・笑顔・希望のまちづくり

刈谷市は愛知県のほぼ中央に位置し、名古屋市まで電車で20分と、アクセスに非常に恵まれた環境にあります。

また、伊勢湾岸自動車道の刈谷パーキングエリアと岩ヶ池公園を一体的に整備した「刈谷ハイウェイオアシス」は、子どもからお年寄りまで一日中楽しめる施設として、全国でも有数の集客力を誇ります。



観覧車が目印の刈谷ハイウェイオアシス

本年3月のスマートインターチェンジ開通により、産業文化都市としてのさらなる発展が期待されています。

子育てするなら刈谷

本市は、子育てしやすいまちとして高く評価されています。市内には21の保育園と15の幼稚園（幼保連携型認定こども園）があり、待機児童ゼロを実現しています。特に幼稚園は、全小学校区に配置され、子育て世帯が仕事と子育てを両立しやすい環境が整っています。小学校入学後も、市内全ての小学校の敷地内に「放課後児童クラブ」があり、支援を受けることができるため、安心して子育てを続けることができます。

また、子育てに対する支援を切れ目なく行うため、妊娠期から安心して出産・育児についての相談ができる窓口として「妊娠・子育て応援室」、生後6カ月までの赤ちゃんを養育しているママを対象



家庭の子育てをサポートする子育て支援センター

に先輩ママが自宅を訪問し、良き相談相手となる「育児ママ訪問サポート」、育児の援助を受けたい人と育児を応援したい人とが互いに会員となり助け合う「ファミリーサポート」など、幅広く支援できるよう努めています。

子育て世代が交流する場が多いことも本市の魅力の一つです。子

育て広場を各地区に配置しているほか、拠点となる三つの子育て支援センターでは、プレイルームで遊べるだけでなく、子育て仲間との交流や、子育てコンシェルジュに育児相談もでき、子育て講座やイベントの開催、子育てサークルの活動など、未就園児を持つ家庭の子育てをまちぐるみでサポートしています。

若手職員と共に取り組むおしゃれなまちづくり

市の中心部に位置する刈谷駅は、名古屋市へのアクセスの良さに加え、駅周辺にさまざまな企業があることから、県内でも利用者の多い駅となっています。

その特長を生かすため、駅周辺の安全性と利便性の向上を図り、本市の玄関口としてふさわしくなるよう、駅前空間やシンボルロードなどの整備を進め、現在はJR東海と共にホームの拡幅など、刈谷駅の改善事業に着手しています。

また、駅周辺では、新型コロナ



夕闇に映えるイルミネーション



青空をカラフルに彩るアンブレラスカイ

ウイルス感染症で影響を受けたために活気を取り戻すため、さまざまなイベントなどを行っており、訪れた方がワクワクするような、おしゃれでウオーカブルなまちづくりに取り組んでいます。

最近では、13万球のLEDライトで冬のまち並みを美しく照らすイルミネーションや、駅前空間をカラフルな傘で彩るアンブレラスカイなどを実施し、まちを華やかにする取り組みはSNS上でも話題となりました。

このような取り組みの中には、市役所の若手職員を中心に、組織横断的なメンバーで構成されるプロジェクトチームが発案・実施したものもあり、市の業務の進め方

に、新たな風を呼び込んでいます。今後も若い力を生かし、地元の企業や団体からの支援もいただきながら、よりにぎわいのあるまちづくりを続けていきたいと考えています。

時代の先端を目指す、スマートシティへの取り組み

古くは刈谷城の城下町として栄え、明治維新の先駆け・天誅組の総裁・松本奎堂や志士・穴戸弥四郎、近代では、フェライトの父・加藤与五郎など、時代の先駆けとなる多くの人材を輩出してきました。大正末期には豊田紡織試験工場の誘致により近代産業都市としての足掛かりを得て、現在では、自動車関連企業の本社・開発

拠点などが集積する、日本有数の産業都市として発展してきました。このような本市の歴史的背景や産業構造、地理的条件は、スマートシティの実現に向けた要素に恵まれていることから、令和3年度に愛知県と共同でスマートシティに関する研究会を立ち上げ、自動車関連企業をはじめとした企業、団体などと共に、実証プロジェクトのアイデアを検討しました。本年度は、研究会を基礎として「刈

プロフィール

- ◆ 面積 50・39 km²
- ◆ 人口 15万2634人
- ◆ 世帯数 6万8228世帯

〔将来都市像〕人が輝く 安心快適な産業文化都市

〔まちの特徴〕名古屋からのアクセスが良く、最先端技術を駆使した自動車関連産業の工場が立ち並び、産業と文化が調和したまち



刈谷市長
稲垣 武



〔特産品〕スイカ、大根、里芋、ブドウ、梨、イチジク
〔観光〕刈谷ハイウェイオアシス、小堤西池のカキツバタ群落、亀城公園、交通児童遊園
〔イベント〕桜まつり、西三河フォークジャンボリー、大名行列・山車祭、万燈祭、わんさか祭り、野田雨乞笠おどり、刈谷アニメcollection

谷市スマートシティ推進協議会」を設立するとともに、本市のスマートシティ推進の指針となる「刈谷市スマートシティ構想」を策定し、地域課題の解決に産学官共創で取り組む体制を整えていきます。協議会の活動を通じて、行政の力だけでは実現できない課題解決策の検討や実証実験を実施し、社会実装につなげていくことで、将来にわたって持続可能なまちづくりを推進していきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

可能性全開!! 成熟したまちへの成長を目指して

県央に位置する伸び代
いっぱいのもち

始良市は、平成22年3月に三つの町が合併し誕生した、鹿児島県内で最も新しい市です。

県本土の中央部に位置し、県都鹿児島市をはじめ、霧島市や薩摩川内市などの県内主要都市にも隣接するなど、地理的条件や交通の利便性の良さから住みやすいまちとして、県内でも唯一人口が増加し続けております。平成27年4月

には新たな小学校が開校するなど、特に子育て世代の増加が顕著で、今もなお成長し続けている活力あるまちです。

本市には、日本一の巨樹として知られる国指定特別天然記念物「蒲生のクス」をはじめ、日本の滝百選に選ばれた「龍門滝」や、戦国武将の島津義弘公に由縁のある史跡、旧跡が数多く存在し、県内有数の文化財の宝庫としても知られております。

さらに、歴史的にも交通の要衝



日本一の巨樹「蒲生のクス」



日本の滝百選「龍門滝」

地理的優位性を生かして 企業進出

県央に位置する本市は、産業構造を支える陸・海・空の多様な交通ネットワークが充実していることから、土地取引が活発に行われております。近年は、民間事業者

として栄え、現在も九州縦貫自動車道が市を横断しており、二つのインターチェンジに加え、令和3年3月には県内初となる桜島スマートICが全面開通しました。また、主要幹線道路では、国道10号および県道川内加治木線などが市内を横断し、市民生活のみならず、広域的な産業活動を支えています。加えて、JR日豊本線には加治木駅、帖佐駅、重富駅など五つの駅があり、隣接市町からのアクセスを容易にしています。



始良市航空写真

よる住宅地が頻繁に造成され、物流用地などへも多くの企業が進出し、就業機会の確保・拡充や定住人口の増加、所得の向上に大きく貢献しています。

また、市では積極的な企業の誘致や地域内企業の支援の取り組みを行い、須崎地区公共用地と平松物流用地を中心に、製造業や県内各地への物流拠点とした物流・運輸業など、ここ数年で33社の企業が新たに進出しました。現在も企業立地に関する相談が複数あり、引き続き、新たな用地の確保・造成を行い、雇用の確保・拡大につなが



全天候型子ども館パース図



郷土料理「煮しめ」

伝統の味を継承し、 そして後世へ

る取り組みを進めております。

鹿児島県が誇る郷土料理といえば「煮しめ」。煮しめとは、野菜や鶏肉などを煮汁が無くなるまでじっくり煮込む料理で、その具材や味は家庭によって多岐にわたります。それぞれの家庭の数だけ煮しめが存在し、それが代々伝えられていま

す。作り方や味付け、具材などいろいろな種類があつて面白い食べ物です。私の幼少期は日常の食卓やお盆、正月、節句などの人が多く集まる際、のふるまいやおもてなし料理として必ず出される「おふくろの味」であつたことから、特に意識して口にする料理ではありませんでした。

しかし、近年では食生活の多様化と高齢化の進行により、

素朴だった家庭の味が消えつつあります。

素朴で心温まる煮しめが食べられなくなるのは、和食文化の消滅と言つても過言ではありません。

後世に、そして世界に発信できる料理であると確信し、鹿児島県に伝承される食文化の発信と継承に向けた食育活動の推進を目的として市民あがての「煮しめグランプリ」を開催しました。コロナ禍の影響により、規模縮小や中止を余儀なくされましたが、継続的に取り組み、日本の誇れる食と伝統を発信してまいります。

このまちで生まれ、 このまちで育ち、 このまちに住む

近年、本市には転入人口の増加や子育て世代の流入により、民間企業が実施する「住みこちランキング」の鹿児島県版で3年連続総合1位の評価をいただきました。今後も人口のピークアウトをできるだけ先延ばしし、子どもたちの元気な声が響き渡るまちを維持するための施策を講じてまいります。

その一つに、子どもにかけるお

金は未来への投資と捉え、地域の宝である子どもと子育て世代への支援として、令和6年春のオープンを目指して「全天候型子ども館」の整備を進めています。子どもたちが自由に遊び回れる場所はもちろんのこと、子育てで悩んだり不安になっている保護者の皆さまに寄り添い、いつでも一時預かりができるなど、精神的な心の支援を行います。

私は、本市が子どもに対する「暴力や放置」などの児童虐待をなくし、子どもたちがすくすくと健康に育っていきける「成熟したまちへ成長したい」と思っています。そして、将来の子育て世代の方々にも「住む場所」や「子育ての場所」としていつまでも始良市を選択してもらえような、子どもたちの元気な声が聞こえるまちであり続けたいと思っています。

プロフィール

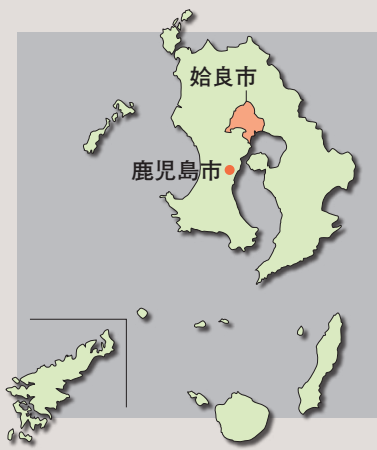
- ◆ 面積 231・25 km²
- ◆ 人口 7万8001人
- ◆ 世帯数 3万7882世帯

〔将来都市像〕可能性全開！夢と希望をはぐくむまちづくりひとりとひとりが主役 住みよい県央都市 あいらる〔まちの特徴〕風光明媚な環境に恵まれ、悠久の歴史を刻みつつ、さらに躍動するまち

〔市町村合併〕平成22年3月23日、加治木町、始良町、蒲生町の3町が合併



始良市長
湯元敏浩



〔特産品〕生産者県内「有機野菜」、生産量県内「はだか麦」、島津義弘公の和スイーツ「加治木まんじゅう」、ご当地ソウルフード「あご肉」、焼酎、あいらの愛がとまらない餃子

〔観光〕蒲生のクス、龍門滝、龍門司坂、白銀坂、重富海岸

〔イベント〕くも合戦、太鼓踊り、花火大会、日本一大桶どんと秋まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。